

第 26 回生活科学系コンソーシアム会議 議事録

日時：平成 30 年 12 月 22 日（土）11:00～12:30

場所：日本女子大学 100 年館 504 会議室

出席者：（敬称略）

生活科学系コンソーシアム構成学会より 計 13 名

国際服飾学会	山村明子
日本衣服学会	阿部栄子
一般社団法人日本家政学会	綾部園子
日本家庭科教育学会	荒井紀子
日本消費者教育学会	柿野成美
公益社団法人日本食品衛生学会	永山敏廣
一般社団法人日本調理科学会	三宅裕子
服飾文化学会	大網美代子
一般社団法人日本繊維製品消費科学会	小柴朋子
生活経済学会	米山高生
一般社団法人日本保育学会	戸田雅美
一般社団法人日本健康心理学会	竹中晃二
日本健康科学学会	中村順子

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員 計 14 名

小川宣子、塚原典子、香西みどり、薩本弥生、多屋淑子、都築和代、工藤由貴子、藤原葉子、倉持清美、重川純子、宮野道雄、鈴木恵美子、守隨香、片山倫子

欠席者：構成学会

公益社団法人日本栄養・食糧学会、日本食生活学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、公益社団法人日本食品科学工学会、日本健康医学会

欠席者：日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会委員 計 2 名

永富良一、熊谷日登美

配布資料

資料 1. 出席名簿

資料 2. 第 25 回生活科学系コンソーシアム議事録（案）

資料 3. 第 7 回生活科学系コンソーシアムシンポジウム

資料4. 第10回生活科学系博士課程論文発表会

資料5. 構成学会の会長及び連絡担当者の氏名および連絡先一覧

議題

- (1) 第25回生活科学系コンソーシアム会議議事録(案)の承認(守随委員)資料2
議事録案について、資料のとおり承認された。
- (2) 第9回生活科学系博士課程論文発表会について(守随委員)資料4
平成31年3月19日(火)の第10回生活科学系博士課程論文発表会について、資料に基づき説明があった。日時と開催場所の確認、懇親会の案内、発表者には学術奨励賞を授与していること、および発表者は8名を予定していることなど、発表会の説明がなされた。さらに小川会長より、関係諸大学長および大学院研究科長に案内状を送付すること、発表者の申し込みが2月1日(金)までであることが確認された。塚原副委員長からは、構成学会にも申込みフォーマットを送付することが伝えられた。
- (3) 第6回生活科学系コンソーシアムシンポジウムについて(多屋委員)資料3
本会議後に開催される第7回生活科学系コンソーシアムシンポジウム及び懇親会の運営委員が紹介、および登壇者とテーマ、スケジュール、会場について説明がなされた。なお懇親会の司会をシンポジウムの運営委員である2構成学会(日本消費者教育学会、日本家庭科教育学会)が担当する旨、報告がなされた。
- (4) 生活科学系コンソーシアム総会開催日程について(小川会長)
2019年5月14日(火)17:00より総会を開催すること、総会には構成学会から会長と連絡係の2名が出席することが基本である等の説明がなされた。
- (5) その他
特になし

報告

- (1) 第24期日本学術会議 健康・生活科学委員会家政学分科会活動報告
 - ①小川会長より、家政学分科会から提出した「提言 生きる力のさらなる充実を目指した家庭科教育への提案-より効果的な家庭科教育の実現に向けて-」提言が日本学術会議から12月14日に発出され、HPにアップされたことが報告され、生活科学系コンソーシアム構成学会会員への周知が依頼された。
 - ②小川会長より、学術会議で計画されている大型マスタープラン申請への希望がある学会は健康・生活科学委員会から提出を行うので申し出をするように説明がなされた。
- (2) その他

①名簿、行事予定提出のお願い（阿部委員）

今年度の学会の行事予定の提出締め切りを6月としてお願いしているが、未提出の学会へ再度、提出依頼がなされた。また、名簿変更についても随時の変更届けがお願いされた。

②WG 報告：家政学分科会における提言表出にむけての WG の進捗状況が報告された。

・免許更新 WG（倉持委員）

家庭科教育をめぐる知見は日進月歩である。今後は家庭科教育の講習を教員の研修として充実させたい。

・被服分野 WG（多屋委員）

大学教育の中で養成される衣料管理士資格と被服学教育について検討を行っている。衣料管理士養成の4年制大学とその卒業生を対象にしたアンケート結果の報告とともに被服学教育に関するシンポジウムを10月27日（土）に開催した。

・住分野 WG（宮野委員）

住居系 84 大学 52 学科を対象に建築士に関する取得資格についてのアンケート調査を実施した。当該学科卒業生へのアンケート調査も行い、資格教育が専門教育に与える影響を検討した。

・保育分野 WG（守隨委員）

5月に行われる日本保育学会の大会で、家政学3分野（食分野、被服分野、住居分野）の登壇者を迎え、保育環境を家政学の視点でとらえるシンポジウムを行う。保育学を学として問う試みに位置づけたい。

・生涯学習 WG（重川委員）

生涯にわたって生活に関する学習機会が必要ではあるが、生活や身体的にも変化の大きい時期である成人期初期、50歳代後半から60歳代前半、60歳代後半から70歳代前半に焦点をあてることとした。これらの年齢層に向けた生涯学習について、関連する学術分野の研究成果等を踏まえた学習内容を検討したい。

・食分野 WG（塚原副会長）

管理栄養士養成教育に関するアンケート調査を実施し、データを入力中であることが報告された。

・科研費 WG（鈴木委員）

科研費申請のキーワードを検討している。各分野の専門用語について、狭義の用語ではなく広義の用語（食と健康、生活と安全など）を鈴木委員のメールアドレス（資料5）に寄せてほしい。

小川会長より、生活科学系コンソーシアムの運営について、現在は家政学分科会が中心となって活動計画を提案しているが、構成学会からの意見も反映しつつ運営を行っていきたいので、活動内容について積極的な発言を期待する要望がなされた。

最後に出席した構成学会の代表から、各学会が今取り組んでいる活動内容について紹介された。

次回会議日程：2019年3月19日（火） 午前（午後は博士課程論文発表会）

場所：共立女子大学